

# 一段活用に下接する撥音について

## — BCCWJと名大会話コーパスの使用実態を踏まえて—

劉志偉

【キーワード】 一段活用、撥音、肯定か否定か、助動詞ム、準標準語、BCCWJ、名大会話コーパス、学習者の視点

### 【要旨】

本稿は、まず書き言葉と話し言葉における現代日本語の撥音の使用実態を明らかにすべく、BCCWJと名大会話コーパスをそれぞれ用いて調査した。そして、両コーパスにおける多種多様な撥音形式の分布を示し、両者の異同について考察を行った。その結果、両コーパスは共通して「肯定」「否定」別の用例がとりわけ多いほか、ともに近畿方言に由来する撥音形式が多く含まれていることが分かった。このことから撥音指導に関しては「準標準語」の視点を看過できないと主張する。また、BCCWJにおいては助動詞のムに由来する撥音が2位にランクインしており、日本語学習者を対象に読解の指導を行う際、通時的観点を（部分的に）取り入れる必要がある。最後に「肯定」「否定」に「助動詞ム」が絡む一段活用に下接する撥音を、学習者にとっての最難点として取り上げ、学習者の視点から指導への提言を行った。

### 1. はじめに

学習者が日常的に耳にする話し言葉の撥音について、「分かんない」「謝んなさい」「行けんの」「かもしんない」「おもんない」のようなラ行音が撥音化したものは多いが、「君んち」「嫌んなる」等の形式も少なくない。また、テレビをつければ、「食べんねん」「琵琶湖の水止めたんで」<sup>(1)</sup>「行きまんがな」等近畿方言に由来する撥音を聞くのも日常茶飯事であろう。さらに、「割れんばかりの拍手」をはじめ、「いざ行かん」「触れなば落ちん」等現代日本語の知識のみでは説明しきれないような形式を考えあわせれば、撥音の学習は決して容易ではないことが分かる。劉（2018）は学習者にとって現代日本語の撥音の難しさの原因はその種々雑多な形式にあると述べ、ラ行音の撥音化に焦点を絞って考察を行った。バラエティ番組のテロップをデータとして用いており、話し言葉におけるラ行音撥音の使用実態の一端を反映するものと見なすことができる。これに対し、本稿ではBCCWJを用いて書き言葉における撥音全体の使用実態を明らかにすると同時に、名大会話コーパスのデータについても考察を行い、書き言葉における撥音の

---

(1)「琵琶湖の水を止めてやる」意である。

使用実態との異同についても視野に入れたい。他方、劉（2019）はBCCWJのデータを考察し、特殊拍の1つである撥音の誤解析が特に多いことを明らかにした。日本語学習者のみならず、自動解析システムにとっても撥音の処理が難しいことについて触れた<sup>(2)</sup>。本稿では日本語学習の経験者である筆者の視点を出発点とし、後述するように撥音全体においてとりわけ学習者にとって難しいとされる一段活用の未然（連用）形に下接する撥音形式に焦点をあてることとした。

## 2. 先行研究

日本語教育における音の変化・縮約形（以下、音縮形）に着目した早期の研究として堀口（1988）や嶺岸（1999）等が挙げられる。ぞんざいな話し言葉で美しい日本語ではないという理由でそもそも音縮形を教える必要がないという考え方はすでに古く、音縮形が理解面に直結するものとして日本語教育現場においてはその指導が重要視されつつあると言える。例えば、スリーエーネットワークの『新完全マスター』シリーズでは多くの紙面を割いて音縮形関連のコラムが設けられており、音縮形指導の重要性を物語っている<sup>(3)</sup>。ただし、基本的には学習レベルに合わせて提示する必要があるため、音縮形を個別に提示する体裁がなされている。そのため、上級以上でニアネイティブレベルを目指す学習者に関してはさらに体系的な提示方法を考える必要もあろう。

音縮形の1つとしてラ行音の撥音化現象が挙げられる。福池（2017）は日本語教科書におけるラ行音の撥音化の扱いを調査し、総合日本語教科書では初級から中上級までほとんど取り上げられていない実態を明らかにした。そして、会話、発音教材ではスクリプトに積極的にラ行音の撥音化現象を取り上げる教材はあるが、体系的な解説が行われていないとの問題点を指摘している。劉（2018）ではバラエティ番組のテロップを手掛かりに、ラ行音の撥音化に特化した考察が体系的に行われている。さらに日本語学習の経験者の視点からラ行音の撥音化を効率的に理解する学習案も提示された。しかし、学習者にとっての現代日本語の撥音の難しさはその多種多様性にあり、ラ行音撥音以外の撥音形式も併せて体系的に提示する必要があると思われる。この点については『新完全マスター聴解日本語能力試験N2』における以下の箇所を確認しても一目瞭然である。

<p>「ん」</p> <p>例 なんない／<u>ん</u>足ない／  何や<u>ん</u>の／寝<u>ん</u>ない／  食<u>ん</u>るもの／嫌<u>ん</u>なる／いち<u>ん</u>ち</p>	<p>「ら」「る」「れ」「の」「に」</p> <p>例 <u>ら</u>ならない／<u>ら</u>足ない（<u>り</u>ない）／  何や<u>る</u>の／寝<u>れ</u>ない／  食<u>る</u>もの／嫌<u>る</u>なる／いち<u>ち</u></p>
---	---

図1 『新完全マスター聴解日本語能力試験N2』（p.16）

現代日本語の撥音の諸形式を体系的に扱った研究に斎藤（1986）がある。撥音

を網羅的に扱った点では先駆的で、その内容についても実に示唆的な点が多い。ただし、一部の用例についてゆれが認められることに加え、「食べんねん」「食べまんがな」のようないわゆる「準標準語」（劉 2016）や、「いざ行かん」「触れなば落ちん」のような古典語の助動詞ムに由来するもの等も視野に入れる必要があり、なお検討する余地があると思われる。

### 3. 調査結果と考察

#### 3-1 調査方法

本稿では書き言葉における撥音の使用実態を調査するため、国立国語研究所作成 BCCWJ（現代日本語書き言葉コーパス<sup>(4)</sup>）を利用した。一方、話し言葉に関しては均衡コーパスが現時点では存在しないため、名大会話コーパス<sup>(5)</sup>を用いることにした。用例抽出の手順は両コーパス共に以下の通りである<sup>(6)</sup>。「キー」の箇所には「品詞」→「中分類」→「動詞—一般」を選択し、「後方共起条件1」の箇所には「活用形」→「小分類」→「未然形—撥音便」で用例を抽出後、「未然形—撥音便」を「連用形—撥音便」「終止形—撥音便」「連体形—撥音便」にそれぞれ変更して検索した。さらに、「動詞—一般」を「動詞—非自立可能」に設定し直し、「後方共起条件1」を「未然形—撥音便」「連用形—撥音便」「終止形—撥音便」「連体形—撥音便」の順でそれぞれ用例抽出の作業を行った。以上の組み合わせで得た8つのファイルを1つのエクセルにまとめた。続いて非コアデータを含む全用例に対して、目視で誤解析の用例を修正・除外し、考察対象例を決定した。結果は表（1）の通りである。

表1 考察対象用例数

コーパス名	用例抽出数	最終研究対象用例数
BCCWJ	18101	16826
名大会話コーパス	2146	2097

(2) 本稿では誤解析の箇所を修正した上で取り扱っている。

(3) 松本他（2012）も音縮形を積極的に扱った教材として挙げることができる。

(4) 国立国語研究所が構築した現代日本語の書き言葉の均衡コーパスで、収録データ1億430万語が書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにわたる。（[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)）

(5) 大曾美恵子氏が研究代表者を務める科学研究費基盤研究（B）「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」（平成13年度～15年度）の一環として作成された合計約100時間の日本語母語話者同士の雑談を文字化したコーパスである。（<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/nucc/>）

(6) BCCWJに関しては中納言（バージョン2.4）を用いて全データの抽出を行った。名大会話コーパスに関しても中納言（バージョン2.4）で全データを対象に用例を抽出した。

また、用例を確認するに際し、撥音のタイプごと（No.）にタグ付けの作業を行った。計30種類の撥音タイプをさらにグルーピングした一覧が表（2）である。

表2 撥音のタイプに対するタグの一覧

group	詳細	タグ	No.
一	肯定（る→ん）	1 肯定（ラ行音の撥音化）	1
	近畿方言「てん」＝「た」の意味	1 肯定近畿方言	18
	近畿方言（とる→とん）	1 肯定ラ行音近畿方言	22
二	否定（ぬ→ん）	2 否定	2
	近畿方言におけるなを含む表現形式（んかて／んかった／んかったら／んくても）	2 否定近畿方言	7
	近畿方言「んと」＝「ないで」の意味	2 否定近畿方言	9
	近畿方言「んと」＝「ないと」の意味（引用トは除外）	2 否定近畿方言	10
	近畿方言打ち消し意の語尾（ひん／へん）	2 否定近畿方言	12
	近畿方言「てんか」＝「てくれないか」の意	2 否定近畿方言	21
	いわゆる標準語におけるなを含む表現形式（なきゃ／なけりゃ／なければ／なすぎ）	2 否定相当	17
	打ち消しのザル（ex. 言わざ（る）なるまい）	2 否定特別	25
三	助動詞む（ex. む→ん）	3 古典のム	3
四	れ（ex. られない→らんない）	4 ラ行音の撥音化	5
	り（ex. 謝りなさい→謝んなさい）	4 ラ行音の撥音化	11
	ら（ex. 分からない→分かんない）	4 ラ行音の撥音化	15
	す（ex. ますねん→まんねん）	4 ラ行音の撥音化相当近畿方言	4
五	な（なしゃい／なさる）	5 な	19
	助詞のニ（ex. 嫌になる→嫌んなる）	5 に	20
	終助詞相当のノ（ex. のか→んか）	5 の	6
	準体助詞のノ	5 の	8
	所有のノ（ex. 俺の家→俺んち）	5 の	24
	形式名詞のモノ（もの→もん）	5 の相当	23
六	動詞の連用形に含まれる撥音（ex. 飛ぶ→飛んで）	6 特別1	29
	接尾辞「坊」に前接する撥音（ん坊）	6 特別2	28
	入力ミスや発話で撥音表記が1個多い場合（ん）	6 特別3	16
	連用形最終拍伸ばし音相当（～てみん／～てやりん）	6 特別4	30
七	方言（けん）	7 語尾	13
	若者表現の語尾（ました→まんた）	7 語尾	14
	方言（くださんす）	7 語尾	26
	若者表現（ちゃった→ちゃんた）	7 語尾	27

### 3-2 タイプ別の分布

タイプ別にみる撥音の分布についてはBCCWJと名大会話コーパスをそれぞれの表で示す。

#### 3-2-1 BCCWJのタイプ別の分布

BCCWJにおけるタイプ別の分布は表(3)の通りである。

表3 BCCWJにおける撥音のタイプ別分布

タイプ別	用例数	タイプ別	用例数	タイプ別	用例数	タイプ別	用例数	タイプ別	用例数	タイプ別	用例数
2	10396	9	348	4	50	12	23	19	7	21	5
3	2672	6	223	22	48	17	18	11	7	25	4
1	1320	18	124	8	37	15	12	20	6	26	3
29	927	5	80	7	30	24	8	14	6	27	2
10	378	16	52	28	27	13	7	23	6	計	16826

表(3)を確認すると、以下の3点が言える。

①用例数が最も見られた助動詞のヌ由来の「否定」(No.2、用例1)と3番目に多い動詞語尾のル由来の「肯定」(No.1、用例2)がそれぞれ含まれているが、古典語助動詞のムに由来するもの(No.3、用例3)が割って入る形で二位となっている。

(1) #あと、魔物みたいのもいましたね。#生きている人と死んだ人の区別もつか(ん)。(OC01\_05443、下線は筆者による。以下同様。)

(2) #さあ、竹田さん、はやくやちまっとくれ。#「まあ、そうあわて(なさん)な(OB1X\_00156)

(3) #敵をあざむか(ん)がためには、まず味方をあざむけ、と信長はいった。(PB29\_00557)

こうしたデータの分布は、書き言葉においては「肯定」「否定」のほかに、「助動詞ム」の学習も疎かにしてはいけないことを意味する。なお、「助動詞ム」については3-3-3で別途考察する。

②四位の通常の動詞活用撥音便(No.29、用例4)と七位のノの母音脱落による撥音(No.6、用例5)は学習者にとって必修且つ既習項目であるため、特に問題とはならない。

(4) #そうするうちに、場違いな遊女屋の小部屋へあがり(込ん)だことに気がついて、#「このつぎは茶屋でおめにかかりましょう」(LBj9\_00112)

(5) 「紹介してくれる一か。#そりゃあお前さん本物の詐欺だ。#最近ある(ン)だよ。(OB5X\_00037)

ここでは特に五位の「～ないで」意の「んと」形式(No.10、用例6)と六位の「～ないと」意の「んと」形式(No.9、用例7)、そして、八位の過去のテン

スを表す近畿方言の「てん」(No.18、用例8)に注目したい。いずれも近畿方言である。劉(2018)ではバラエティ番組のテロップを手掛かりに考察した結果、使用頻度の高い近畿方言の重要性について述べた。以上の3形式が上位にランクインしていることから、書き言葉の学習においても「標準標準語」の視点を取り入れる必要があろう<sup>(7)</sup>。

(6) #『せんでええって 来たら余計な事いわ (ん)と2階に案内してや』  
(OY14\_12198)

(7) #大変ですよ。#人のやる気を削がず注意喚起して、さらに士気をあげ (ん)といけん。(OY14\_31202)

(8) #聞いて！ #おかんが帰ってき (てん)！ #なんか行きよりえらい重うなったかばんとおとんへのおみやげかかえてよれよれしながらやったけど。(OY05\_00524)

③当然のことながら話し言葉の性格を顕著に持つラ行音撥音の諸形式はあるものの、多くはなかった。レ由来のもの(No.5、用例9)のほか、ラ由来のもの(No.15、用例10)とり由来のもの(No.11、用例11)があった。いずれも「会話文」の箇所、または話し言葉に近い「ブログ」か「知恵袋」にある用例である。

(9) #「答えても釈放されねえかもし (ン)ない。」(LBh9\_00203)

(10) #いざ本番になってその芸をみたら、つま (ん)ねえたらありやしねえの！！(OB2X\_00108)

(11) #ビー、ビ、ビ、ビーッ。#このならしかたは、おねえちゃんです。#「おかえ (ん) なさーい」#「ただいまー」(LBcn\_00027)

### 3-2-2 名大会話コーパスのタイプ別の分布

名大会話コーパスにおけるタイプ別の分布は表(4)の通りである。

表4 名大会話コーパスにおける撥音のタイプ別分布

タイプ別	用例数	タイプ別	用例数	タイプ別	用例数
2	1340	9	13	17	2
1	626	16	9	3	2
10	37	30	3	7	1
6	29	12	3	15	1
18	14	8	2	計	2097
5	13	29	2		

ここでは表(4)を確認しながら、上で述べたBCCWJのそれとの比較を試みる。

(7) BCCWJにおいて撥音を伴う近畿方言の形式が会話文に現れることが多い点について付言しておく。テレビや普段の会話の中に「標準標準語」が多く含まれており、それを理解しないことには学習者に重大な不利益が生じてしまう。

①名大会話コーパスでは上位2位に「否定」(No.2、用例12)と「肯定」(No.1、用例13)が入っており、BCCWJの全体傾向と同様、「肯定」か「否定」かの別が重要であると捉えてよからう。

(12) 怒濤のこの二日間。#いっ、一睡はしたけど、昨日も一、その昨日、徹夜。#うん#うん#今日も一。#徹夜は俺でき(ん)な。#徹夜したら、すげえ体調おかしいもん。(data087)

(13) #いやー、ときどきね、これ、いたずらさ(れん)のよ。#ふーん#ちょっとこの前ね、なんかだれかがね、ガラスを割られてたんじゃないかと思う。(data009)

ここで特に注目すべきは「助動詞ム」(No.3)である。コーパスの規模や性格による面もあるが、用例はわずか2例であり、いずれも「～んばかり」の形式である<sup>(8)</sup>。

(14) #もう負けたね。#なんかもうやかましいわっていう、言わ(ん)ばかりじゃない。#うん#あーくそむかつく、どういうふうにやっても結局最終的に取られるでやんの。(data020)

(15) #金土日と一応お休みなんだけど、金曜日ってなんか、雑用が待ってましたと言わ(ん)ばかりに、なんか。(data084)

従来、教師側の経験・主観によるシラバスではすでにこの形式を取り上げているが、本稿ではデータに基づいて考察しても、「～んばかり」を指導する必要があるとと言える。

②BCCWJのそれと同様、名大会話コーパスからも近畿方言に区分される「～ないと」意の「んと」形式(No.9、用例16)、「～ないで」意の「んと」形式(No.10、用例17)、過去のテンスを表す近畿方言の「てん」(No.18、用例18)が上位を占める結果となっている。「標準標準語」の視点を考慮に入れた場合、この3形式を特に指導項目として立てる必要があろう。

(16) #ちょっとこれ入れないと。#ちょっと入れ(ん)と濃くなっちゃう？ #うん、濃くなるよね。(data049)

(17) #ある程度わかったとき、それこそ、その気持ちはなくならん。#なーなーで言わ(ん)と、ちゃんとはっきり言えばいいのにとか、それはもう、しょうがないことかなって、思う。(data074)

(18) Aちゃん、でも途中で、そう、いなくなっ(てん)けど、Aちゃんも自分でわからへんぐらい\*\*\*てるから。#2人して、ヘロヘロになっていたという。

---

(8)「～んばかり」の「ん」が「助動詞ム」と「助動詞ヌ」のどちらに由来するかについて論じたものに小林(1994、1995)がある。本稿では「助動詞ム」由来のものと便宜的に見なし、小林の議論には立ち入らない。

(data050)

③ラ行音撥音の諸形式（レ由来のもの（No.5、用例 19）、ラ由来のもの（No.15、用例 20））は確認できるものの、用例数はかなり少なかった。

(19) #でもさー、東京住んでたらさー、東京から抜け（らん）なくなりそう。（data104）

(20) もう仕事ないからね。#そうだね。#そうか、じゃ、アメリカで終わり？#もう、そうそうそうそう。#ま、わかんないけど。#やり（きん）なきゃ気が済まない人なんだ、きっと。#あー#それで中途半端な感じならやめますみたいな。（data026）

しかし、これはあくまでも名大会話コーパスの規模と設計によるものであり<sup>(9)</sup>、劉（2018）で示した話し言葉におけるラ行音撥音を学習する必要性を否定するものとはならない。

### 3-2-3 BCCWJにおける「助動詞ム」について

名大会話コーパスにおける「助動詞ム」に由来するものは「～んばかり」に限られており、教育現場でそれを取り上げているのは理にかなっていることは前述の通りである。これに対し、書き言葉における「助動詞ム」に由来するものはそうシンプルには行かない。ここではBCCWJから抽出した「助動詞ム」由来の用例（2672例）を対象に調査し、撥音箇所<sup>(10)</sup>に後続する表現の上位10位を表（5）で示す。

表（5）を確認すると、以下の点が注目される。

表5 「助動詞ム」由来する撥音の後続表現（上位10項目）

順位	後続表現	用例数	順位	後続表現	用例数
1	ばかり	759	6	連体	88
2	とする	752	7	と欲する	84
3	終止	238	8	がため	70
4	連体（こと）	101	9	と（文）	69
5	（如何せん）	90	10	や	41

①首位の「～んばかり」はやはり最も使用される形式であり（用例21）、教材等で取り上げる必要のある項目の1つである。

(21) 連日指定席となったのも満席になってきた表れでしょう。#最近<sup>(11)</sup>は邦画ブームもあって、休日はお客であふれ（ん）ばかりです。（OY11\_05410）

②5位の「如何せん」（用例22）は個別語彙として提示すればよいと思われる。

(9) 名大会話コーパスは129会話を収録した合計約100時間の雑談を文字化した規模のさほど大きくないコーパスである。雑談の話題に対し、一切制限は設けられていないが、ラ行音撥音が産出しやすい環境にあるとは限らない。



また、8位の「～んがため」(用例23)は漢文訓読由来の特徴的な表現である。

(22) なのですが、なかなかいいですよ。#かわいいし。#あと、MaxMara  
とかも、パンツの裾が長いのですが、いかんせ(ん)、あそこは小さめサ  
イズだというのにウエストガバガバなんですよ… (OC09\_08800)

(23) 明治初頭の二三子有り。#彼らは徳川政府に対する反感が露骨にして  
死刑に処せられ、此れは無知なる大衆に媚び(ん)が為に猿芝居を興行し  
て耻ぢざる者のみ」#といいきっている。(LB12\_00041)

③2位の「～んとする」(用例24)と7位の「～んと欲する」(用例25)の場合、  
これらの形式に前置する撥音は基本的には「助動詞ム」に由来するものであると  
いうルールを提示してもよさそうである。

(24) #ともあれ、イエスの言を真につかむためには、その根源の霊言に耳  
かたむけ(ん)とする祈り心が大切である。(PB11\_00045)

(25) (成功・失敗という結果論で英雄を論じてはならぬ)ということがあ  
るが、これすなわち余がいわ(ん)と欲するところと同一義で、事業に敗  
れたからといって、その人が英雄でないとはいえないので (LBg3\_00101)

また、現代語では連体形と終止形が同じ形であるため、3位(用例26)・4位  
(用例28)・6位(用例30)においては学習者にとって同じ課題が残されている。  
つまり、「助動詞ム」と「助動詞ヌ」のどちらに由来するかという判定のことで  
ある。

(26) 報復の秋、日本四島となる狼狽、白旗の下生霊以て静まるを知るあら  
ん。#悲憤の極また何をかいわ(ん)。(LBj9\_00118)

(27) #「無理よ、正反対のことをふたつやろうとしても」#「だったら、出  
頭する—もう何もいわ(ん)。#彼女を無事に見つけるのが第一だ」  
(LB19\_00198)

(28) #もう少し長く書かしてもらいたいし、またそういうことの主張でき  
る作家が早く出現せ(ん)ことを希望する。(PB39\_00564)

(29) 「あいにくと、このどら息子を持って以来、後悔なんでものはせ(ん)  
ことにしたんだ。#キリがないからな」(LBc9\_00061)

(30) 二十年ついに平安の日々なりしその明日の日を怖れおそれて#メコン  
デルタ今また移るひとつ歴史生死の世界知ら(ん)すべなく#君の死をす  
でに告げくるものもなく行くまほろしよ焦土の青山 (OV0X\_00017)

(31) 負けたことがない。#協会の人気牛ですわ」#という。#オーナーの  
藤堂武継さんは#「こいつは、逃げることをしら(ん)性格ですわ。#け  
ど、人間でいうと“一筋”なんですな。(LBk9\_00003)

以上の点を考えあわせると、撥音の学習の難点をつめるところ、「肯定」「否  
定」の判定は勿論のこと、「助動詞ム」と「助動詞ヌ」のどちらに由来するかと  
いうもう1つの難点も看過できないと喚起しておきたい。

### 3-3 活用別の分布

活用別による撥音の分布は表(6)の通りである。

表6 活用別みる撥音の分布

活用別	BCCWJの用例数	名大会話の用例数
五段活用	10024	1091
一段活用	4108	937
サ変活用	1059	23
カ変活用	35	6
通常動詞活用撥音便 <sup>(10)</sup>	1600	40
計	16826	2097

撥音形式の多さに加え、撥音由来の判定で学習者を迷わせる特定の形式があることは上述の通りである。一方、活用別に考えた場合、撥音学習において学習者にとって最も難しいのは一段活用ではなかろうかと思われる。理由は以下の2点による。

(I) サ変動詞・カ変動詞の撥音に関しては吉本新喜劇の名ギャグを確認してもわかるように、個別的に記憶すれば概ね問題の解消となる<sup>(11)</sup>。

(32) ドリル ドリル ドリル せんの すんのかーい

(吉本新喜劇名ギャグ)

(33) 来んのかと思たら来んのかーい

(吉本新喜劇名ギャグ)

(II) 五段活用について「助動詞ム」と「助動詞ヌ」のどちらに由来するかという難点はあるが、「肯定」と「否定」に関しては活用形の違いを見れば一目瞭然である。

(34) まあ、仮にそうだととしても、ほら、世間を騒がせてる例の事件みたい  
に親父が甦って財産は譲ら(ん)なんて言い出したら…、おっと、これは  
兄貴だけじゃなくて、ここにいるみんなが困る話だったな」(LBd9\_00167)

(35) #好:「何やねーん髪型崩れるー」とかソフトに嫌がる。#嫌:「やめ  
ろ(触ん)な髪型崩れる」と全力で私は、拒絶する!!!!  
(OY14\_51117)

現代日本語では一段動詞は未然形と連用形が同じであるため、「肯定」「否定」の判定のほか、「助動詞ム」と「助動詞ヌ」のどちらに由来するかという難点も複雑に絡み合っており、活用別で見た場合、学習者にとって最も難しいと言える。次節では一段活用に特化して取り上げる。

(10) 「飛ぶ」が「飛んで」「飛んだ」のような動詞活用の撥音便等を指す。

(11) 「助動詞ム」と「助動詞ヌ」の区別の問題は3-2-3で述べた通りである。

### 3-4 一段活用に下接する撥音の実態

ここでいう一段活用について一段動詞は勿論のこと、五段動詞の可能形や、「セル／サセル」「レル／ラレル」といった使役形と受身形も含まれる。このほか、「～しめる」「～きれる」のような一段活用タイプの複合動詞や、「～て貰える」のような補助動詞の可能形も同じく一段活用として扱う。

#### 3-4-1 タイプ別にみる一段活用に下接する撥音

BCCWJと名大会話コーパスにおける一段活用に下接する撥音をタイプ別にまとめたのが表(7)である。

表7 タイプ別にみる一段活用に下接する撥音

タイプ別	BCCWJ	名大会話コーパス
2	2135	322
1	1200	576
3	463	0
18	124	14
5	74	13
10	64	8
9	37	3
7	5	0
21	5	0
19	1	0
16	0	1
計	4108	937

上位7位まで確認すると、BCCWJにおいては「助動詞ム」由来のもの(No.3)が三位に達していること、両コーパスともに近畿方言に区分される撥音(No.9.10.18)が多いこと、の2点については全体での考察と軌を一にする。また、ラ行音撥音のうち、レ由来のもの(No.5)が多かったと言える。順番はコーパスによって入れ替わっているが、ここでは特に「肯定」(No.1)と「否定」(No.2)に注目したい。なぜならば、一段活用に下接する撥音が動詞語尾のルと打消しの「助動詞ヌ」のどちらに由来するか、即ち「肯定」か「否定」かが学習者にとっての最大の関心ごとにして最大の難点であると言えるからである。この点については筆者の学習メモ(図2、図3)を見れば明白である。

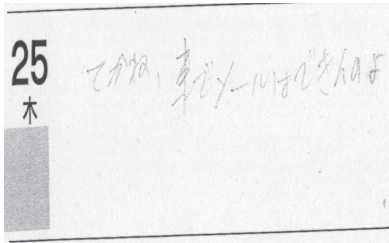


図2 メモ (2004)  
「てかね、車でメールはできんのだよ」

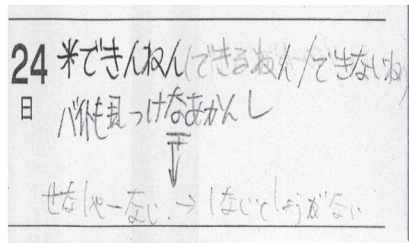


図3 メモ (2004)  
「できんねん (できるねん / できないねん)」

一般的に言われる肯定と否定の難しさと重要さについては、野田 (2018: 48) が以下のように述べている。

肯定か否定かを理解するためのこのような文法は、「聞く」ための文法の1つとして必要である。(中略) このような表現も学習者にとっては適切に理解するのが難しい。今後さらに、肯定か否定かを理解するための文法研究を進めていく必要がある。

ただ、野田 (2018) は「～じゃない」のようなイントネーションによって肯定否定に分けられるものや、否定の形式を用いながら「言うまでもない」のように肯定を表すもの、逆に否定の形式がないのに否定の意味を表す「遠慮しておく」等を指している。学習者の視点からすれば、一段活用に下接する撥音が動詞語尾のルに由来するものなのか、それとも打消しの「助動詞ヌ」に由来するものなのか<sup>(12)</sup>についてもこうした肯定か否定かの問題として取り上げる必要があると考える。

一段活用に後続する撥音が「肯定」か「否定」かを判定する際に、イントネーションの差や後続表現の違いを見なければならぬことについては劉 (2018) で触れられている。本稿では、コーパスの用例分析を通して、学習者が「肯定」か「否定」かを判定する際に、共起する副詞を中心とする修飾句や前後の文脈(用例36～38の下線部)が大きな手掛かりになることを指摘しておきたい。

(36) # 文句は教頭に言ったらいい。# だけどな、直訴したからって、カリキュラムは変更さ(れん)ぞ # 突き放したような久保田の口調に、奈々絵は口を尖らせた。(LBn9\_00226)

(37) # ある意味狂ったおっさんだから見かけたら逃げろ。# さもないとパ

(12) いわゆる標準語と近畿方言における「ぬ」「ん」の歴史関係については近藤他(2005: 164-165)を参照されたいが、学習者にとってこうした東西の「対立」(p.204)の判別は決して容易ではないことを申し添えておきたい。

ンの中身にさ(れん)ぞ!!!! (OC14\_04033)

(38) #ムロイ#「そんなことないよ」って言ってきたら「冗談を真にうけ(ん)なよ」ってごまかせばいいじゃん#アカネ#その場の雰囲気にもよるだろうけど…#ムロイ#なんでそんなに暗く考えてん(LBq9\_00202)

ところで、一段活用に関連して、劉(2018)では表(8)を提示し、「てん」を含む諸形式が学習者にとって難点の1つであると述べた。

表8 「てん」を伴う現代日本語の諸表現(劉2018より)

	形式	意味	用例
標準語	～てんの	～て(い)るの	(97) 一体何考えてんの?新婚なのに! (『偽装の夫婦』) (98) 何言ってんの? (『世界の果てまでイッテQ』) (99) 人の話聞いてんのか (『行列のできる法律相談所』)
	～てん～	～て(い)る	(100) 今年からキテンちゃうか俺は (『月曜から夜ふかし』) (101) はよ行け言うてんねん (『ホンマでっか!?TV』) (102) 和やかに～にしゃべってんねんけど (『快傑えみちゃんねる』) (103) もろうて全然違う子にあげてんねん (『快傑えみちゃんねる』)
準標準語	～てん	～た	(104) 俺のや!買ってん (『ニンゲン観察バラエティ モニタリング』) (105) 手を合わせてん!一緒に (『快傑えみちゃんねる』) (106) 帰りやってん (『月曜から夜ふかし』) (107) 小4まで焼いててんな (『探偵ナイトスクープ』) (108) 本当に勝手に入ってん (『クレージージャーニー』) (109) 一時凄いスターになってんけど (『クレージージャーニー』) (110) 病院ごっこが多かってん (『探偵ナイトスクープ』)
	～てんと	～ていないと～ ～ていないで～	(111) 待ってんとあかん (岡本・氏原2006:44) (112) 待ってんと行き (岡本・氏原2006:44)
	～てんか	～ているのか	(113) あんた寝てんか
		～てくれないか	(114) わろてんか (平成29年秋NHKドラマ)
			(115) また来てんか

しかし、劉（2018）はテロップから抽出した実例を用いており、その目的も体系的に示すことにあった。本稿ではコーパスの用例を通じて、この点について量的な視点からも考察したい。その結果は表（9）の通りである。

表9 BCCWJと名大会話コーパスにおける「てん」を含む諸形式

タイプ別	BCCWJ	名大会話コーパス
1	1082	559
9	4	0
10	1	0
18	124	14
21	5	0
計	1216	573

表（9）を確認すると、名大会話コーパスに比べて、BCCWJのバリエーションが豊富であることが分かる。しかし、「肯定」（No.1、用例39）の数がコーパスを問わず圧倒的に多いことから、「てん」を含む形式は一般的に「肯定」、即ち動詞語尾のルに由来するとの傾向を指摘しても差し支えなからう。特に、「てん」に「の」（用例40）または「のか」（用例41）が後続する場合はその傾向がより顕著になる。

(39) #「もお復活し（てん）じゃん」#「ちゃうんだよ、もっと大々的に大復活祭やるわけ、ドッカンと」（LBn7\_00052）

(40) #なにあせつ（てん）の、カッコ悪いって感じ。（LBt7\_00063）

(41) #こういうとき、あたふたするやつばっかのご時世なのにさ。#腹すわってんのか、人生あきらめ（てん）のか、どっちか知らないけど。（PB29\_00698）

また、「肯定」（No.1）を除いて、それ以外はすべて近畿方言であることも特徴的である。「～ないと」意の「んと」形式（No.9、用例42）、「～ないで」意の「んと」形式（No.10、用例43）、過去のテンスを表す近畿方言の「てん」（No.18、用例44）についての説明は全体と同じである。

(42) #「何ヶ月云うたか忘れてしもたけど、人眼につく云うたぐらいやし、六ヶ月か七ヶ月になつ（てん）と工合悪いなあ」（PB19\_00373）

(43) いつまでもやつ（てん）と、早よ寝えーやって家族に言われませんか？（OC14\_11933）

(44) #「今日な、夢の中で花菜ちゃんが出てき（てん）。#一生懸命大声で呼んでるのに、嬉しそうに笑ってるだけやねん。（LBt3\_00160）

ここでは「～てんか」（No.25、用例45・46）について触れておきたい。この用法に関しては名大会話コーパスでは用例が見受けられず、BCCWJにおいてのみ用例の確認ができた。

(45) #でも、最近犯罪が多くないけ？ #ジョシコーサーが狙われるんやで。

#犯罪に巻きこまんどいてや！#ミニはやめ(てん)か〜。(OC09\_08658)  
(46) #「あんたは、ほんまに生意気やわ。#もおー帰っ(てん)か」#「はい、わかりました。#ほな、さいなら」#と言って帰ってきました。  
(OB6X\_00024)

しかし、用例数がわずから例にとどまっておらず、そもそも近畿方言の母語話者でなければこの用法を知らない人が多いことから、「～てんか」の用法については取り立てて学習者に指導する必要のある項目ではない<sup>(13)</sup>。

#### 4. おわりに

本稿はBCCWJと名大会話コーパスのデータを手掛かりに、書き言葉と話し言葉における撥音の使用実態を明らかにした。多種多様な撥音形式の分布状況から、「肯定」「否定」別が最も重要であることは言うまでもない。ただし、学習者を対象とした撥音指導の場合、近畿方言に由来する複数の撥音形式があること、BCCWJでは「助動詞ム」に由来する撥音が特に多いことの2点から、「標準標準語」「通時的観点」といった視点を(部分的に)取り入れる必要があると思われる。活用別で学習者にとって最も難しいとされる一段活用に下接する撥音の指導においてはこれらの視点が特に肝要であろう。

一方、「肯定」「否定」を判定する際の特徴的な副詞修飾句または文脈の傾向や、「助動詞ム」における下位意味別の分布等なお検討を要する点が多い。今後の課題として別稿で詳述することを目指したい。

#### 参考文献

- 小林賢次(1994)「『(言わ) んばかり』考—国語辞書類の意味記述をめぐって—」『日本語研究』14、pp.109-116、首都大学東京(現都立大学)
- 小林賢次(1995)「『(言わ) んばかり』考—慣用表現の成立と展開—」『日本語研究』15、pp.194-204、首都大学東京(現都立大学)
- 近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己(2005)『新訂 日本語の歴史』放送大学教育振興会
- 斎藤純男(1986)「話し言葉におけるラ行音およびナ行音のモーラ音素化」『日本語教育学』60、pp.205-220、日本語教育学会
- 野田尚史(2018)「日本語教育はどのように新しい日本語文法研究を創出するか—「聞く」「話す」「読む」「書く」ための文法の開拓—」『日本語文法』18—2、pp.45-61、日本語文法学会
- 福池秋水(2017)「日本語教科書における「ラ行の撥音化」の扱いについて」『関西外国

(13) 吉本新喜劇を題材にしたNHK大河ドラマ「わろてんか」が記憶に新しいが、大学の授業で日本語母語話者の学生を対象に確認したところ、近畿以外の出身者のほとんどが題目にある形式を理解できていないことが分かった。

- 語大学留学生別科日本語教育論集』27、pp.1-8、関西外国語大学留学生別科  
福池秋水（2020）『漫画に見られる話しことばの研究—日本語教育への可能性—』ひつじ書房  
堀口純子（1988）「話しことばにおける音縮形と日本語教育への応用」『文藝言語研究（言語篇）』15、pp.99-121、筑波大学文藝・言語学系  
嶺岸玲子（1999）「日本語学習者への縮約形指導のめやす—日本人による評価と使用率をふまえて—」『日本語教育』102、pp.30-39、日本語教育学会  
山根智恵監修（2020）『日本語口語表現辞典〈第2版〉』研究社  
劉志偉（2015）「通時論的観点から部分的に取り入れた文法指導の試み」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』第2号、pp.19-36、武蔵野大学日本文学研究所  
劉志偉（2016）「学習者の視点から見た「標準標準語」文法項目について」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』第3号、pp.53-69、武蔵野大学日本文学研究所  
劉志偉（2018）「日本語教育の立場から垣間見たラ行音撥音化—日本語学習者の視点から—」『埼玉大学紀要（教養学部）』54—1、pp.121-135、埼玉大学教養学部  
劉志偉（2019）「撥音の解析はUniDicにとっても簡単ではなかったんだ—BCCWJを中心に—」『埼玉大学紀要（教養学部）』54—2、pp.175-200、埼玉大学教養学部

#### 教材資料

- 『新完全マスター文法日本語能力試験 N2』スリーエーネットワーク  
『新完全マスター聴解日本語能力試験 N2』スリーエーネットワーク  
『新完全マスター漢字日本語能力試験 N2』スリーエーネットワーク  
松本節子他（2012）『初級から中級への日本語ドリル文法チャレンジ編』The Japan Times

#### 謝辞

論文執筆にあたって、清水由貴子氏（聖心女子大学）・小口悠紀子氏（広島大学）より貴重なコメントを賜った。また、中嶋徹氏にもご協力頂いた。ここに記して感謝を申し上げる。